



## 予備自衛官五日間訓練を支援

自衛隊埼玉地方協力本部（本部長 山下真司一等空佐）は、七月十七日（金）から二十一日（火）まで、第三十二普通科連隊重迫撃砲中隊（大宮）が朝霞駐屯地で実施した、令和二年度第一回予備自衛官五日間招集訓練を支援した。

新型コロナウイルス感染症対策の影響で、予備自衛官の方々との訓練出頭調整も当初の予定よりも大幅に遅れたが、各予備自衛官は短い時間の中でそれぞれの勤務先と調整し、合計五十四名が元気に出頭したことを確認できた。

今回は様々なコロナ感染症対策を講じた上での訓練となったが、参加した各人は、我が国の防衛力を補完する戦力の一員であることを深く自覚し、それぞれの訓練課目に積極的に取り組み、予備自衛官としての練度の維持向上に努めている姿勢が見てとれた。

また、訓練最終日には山下本部長が、予備自衛官として長期にわたり勤務に精励したとして、東部方面総監表彰（勤続十年以上）一名及び埼玉地方協力本部長表彰（勤続五年以上）五名に永年勤続表彰状を、予備自衛官の定年年齢に到達し今回が最後の訓練となる武居三三夫予備一曹には顕彰状をそれぞれ授与した。引き続き、今回の訓練中、体力検定一級に合格するなど極めて優秀な成績であった濱野桂子予備三曹を表彰した後、一同の訓練参加の労をねぎらうとともに、国防の一翼を担う予備自衛官の重要性と災害派遣における活動状況を紹介した。

埼玉地本では、今後とも予備自衛官に寄り添った親身な対応と身上把握をはじめ、様々な施策を講じて充足率及び訓練出頭率の向上を図るとともに、災害派遣等の招集機会には迅速に対応できるよう努めていきます。



## 県内の中学校で南極の氷を紹介

埼玉地本（本部長・山下一等空佐）は十月十三日（火）、川口市立神根中学校で、海上自衛隊南極地域観測協力活動についての広報活動として、南極の氷を紹介した。本広報は、海上自衛隊から配布を受けた南極の氷を学校教育に役立ててもらおうと、埼玉地本公式ツイッターにて「埼玉県内の学校へ南極の氷お届けします」と企画したところ、神根中学校から「是非、本校の生徒に南極の氷を見せたい」と依頼を受け実現したもので、全校生徒（約500名）が参加した。

初めに、同地本室長・松尾一海尉が南極観測隊への支援活動、砕氷艦「しらせ」や南極の氷について説明した。その後、代表生徒が氷に触れ、南極の氷の特徴である「パチパチ」と弾ける感触に初めは驚いた様子であったが、徐々に笑顔が溢れた。生徒からは「水道水を凍らせたものを触った時とは違うパチパチとした感覚に驚きました」「数万年前の南極の気泡に触れることができ感動しました」などの声を聞くことができた。

また、校長先生からは、「新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ほとんどの学校行事が中止となっていたので、久しぶりに生徒たちの笑顔を見ることができて感慨深かったです」という言葉があった。さらに、同中学校のホームページで、本広報の様子が動画で掲載され、その中で「自衛隊の皆様、夢を届けていただき本当にありがとうございます。」「このメッセージがあり、広報の成果を感じることができました。」

自衛隊埼玉地方協力本部は、「様々な機会を通して、防衛省・自衛隊の活動についての理解、認知度の向上を図るとともに、地域の学校教育に協力していく。」としている。

